

平成30年度「物流講座」 開催案内

1. 物流講座の目的

今後の港湾運営の戦略検討に資するため、国際物流の最新動向を学び、物流の視点からの港湾のあり方を考える貴重な機会を提供するとともに、その成果を実務面へ反映させるため講義とともに討議を行う。

2. 受講対象

港湾管理者、港湾所在自治体、国土交通省地方整備局、コンサルタント、港湾関連企業等の職員で、実務経験5年以上の職員。

3. 開催時期 平成30年6月14日(木)～15日(金)

4. 会場

「ビジョンセンター永田町」ビジョンホール 合人社東京永田町ビル6階
〒102-0093 東京都千代田区永田町1-11-28



アクセス

東京メトロ
有楽町線
半蔵門線
南北線 } 永田町駅下車

出口3から徒歩すぐ

5. 募集受講者数

100名

(定員に達した場合には、申込期限にかかわらず締切らせて頂きます。)

6. 受講料(税込み)

日本港湾協会会員 10,000円 非会員 15,000円

申込受付後、請求書を送付いたします。

7. 申込み方法

申込受付期間：平成30年4月2日(月)から5月14日(月)まで

(公社)日本港湾協会ホームページ (<http://www.phaj.or.jp>) 「講演会・講習会・物流講座」

からお申し込みください。

※ 問合せ先 (公社)日本港湾協会 森田、畑谷 電話03-5549-9574

本講座は土木学会継続教育(CPD)プログラムの認定申請予定です。

《裏面もご覧下さい》

8. カリキュラム

【2018年 6月14日（木）】

| 時間帯 | 内 容 | 講 師 |
|-----------------------|--|-------------------------------|
| 10：20～10：30 | 開講挨拶 | (公社) 日本港湾協会 理事長 須野原 豊 |
| 10：35～11：45 (70分) | 「国内 RoRo 輸送の動向」 内航定期船のネットワーク、清水港～大分港航路の意義、デイリー化、宮古港～室蘭港航路の意義、港湾の選定理由、国内 RoRo 航路の意義、モーダルシフトなど | 川崎近海汽船(株) 常務取締役 川崎 誠司 氏 |
| 13：15～16：45 (210分) | 「港湾の経営とロジスティクス戦略」 サプライチェーン時代の港湾、ロジスティクス・ハブ港湾への脱皮、日本の成長戦略と港湾の役割、アジア域内物流システムの強化と港湾の対応など 〈意見交換〉 | 政策研究大学院大学 客員教授 井上 聡史 氏 |
| 17：00～18：30 | 懇談会 (Vision Hall) | |

【2018年 6月15日（金）】

| 時間帯 | 内 容 | 講 師 |
|-----------------------|---|-----------------------------------|
| 9：30～10：40 (70分) | 「アジア近海フェリー・国際 RoRo 航路の動向」 博多港～釜山港のフェリー航路の現況、自動車部品輸送、北九州港～釜山港の RoRo 航路への展開、フェリーと RoRo の相違、コンテナとフェリー／RoRo の相違、韓国と日本企業の出資の意義、アジア域内の短距離輸送の展望 | カメリアライン(株) 取締役 橋本 雅生 氏 |
| 10：50～12：00 (70分) | 「アジア近海フェリー・国際 RoRo 航路の動向」 大阪港～釜山港のフェリー航路の現況、金沢港、敦賀港航路の状況、RoRo 船とコンテナ船の比較、名古屋港への RoRo 船の投入、フェリー／RoRo とコンテナの違い、関西と韓国を結ぶ意義、九州北部港湾の航路との比較、アジア域内の短距離海上輸送の展望 | サンスターライン(株) 代表取締役社長 野瀬 和宏 氏 |
| 13：15～15：50 (155分) | 「物流の基礎と現代物流の動向」 物流とサプライチェーン、アジア物流、コールドチェーンなど 〈意見交換〉 | 流通科学大学 商学部教授 森 隆行 氏 |
| 15：50～16：00 | 閉講式 | |

※講師、講演内容については変更が生じる場合があります。